

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県		学校名	城郷高等学校	
人権課題	子供・高齢者		対象学年・ 取り扱った教科等	1 学年 社会	
			時数等	1 時間	
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における取組について知り、共生社会の一員として他者との関わりの中で人権を尊重しようとする態度や実践する力を身に付ける。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣で実施されている「子ども食堂」の取組について聞き、身近な地域の子ども、高齢者も含めた住民の人権について理解を深める。 				
工夫した点	<p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰もが聞いたことがある「子ども食堂」を主たるテーマとし、そこから派生して「子どもの人権」、「子どもを通じた高齢者とのかかわりや交流」そして「地域共生のありかた」といった地域全体の課題解決に向けた活動について理解を深め、自分事として考える機会を提供する。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にある地域で実際に活動を行っているNPO法人の代表に来校してもらい、身近で具体的な人権保護の活動について話を聞くことで「自分にも何かできる」「貢献の仕方が分からなかったが方法を知れた」という生徒のアクションにつながりやすい学びとした。 				

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

家庭科における幼児の発達や高齢者に係る学習の理解につなげる。

事業成果

- ・ 知識的側面：「地域支援としてのフードバンクについて理解していますか。」
講演前： 5%以下 ⇒ 講演後： 理解できた 98.2%
【変容の分析】新しい支援「フードバンク」が多くの生徒に講演を通して認識された。
- ・ 価値・態度的側面：「自分が住んでいる地域での、子供や高齢者を支援する活動について何か知っていますか。」（興味・関心があるかについての問い）
講演前： 知らない 85.5% ⇒ 講演後： 子ども食堂などの活動について知ることができた 98.9%
【変容の分析】自分の地域で行われている活動や子ども食堂の実態について具体的に知らない生徒が多かったが、今回の講演で何が行われているか理解が深まった。
- ・ 技能的側面：「講演の中で、具体的に自分でもできそうな活動を教えてください。」
講演後：例「地域の掲示板で、こども食堂が近くにあることは知っていたけれど実際にこんなに利用する人がいることに驚きました。今回をきっかけに自分も何かボランティアに参加してみようと思いました。（原文）」
【変容の分析】アンケート結果から、ボランティアや地域活動に興味はあったが貢献する方法がわからなかった生徒がいたことが分かった。上記のアンケートコメントから、今回の学習を通して具体的な参加方法やかかわり方を理解し、行動に移そうと考えた生徒が見られた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県		学校名	城郷高等学校	
人権課題	女性	対象学年・ 取り扱った教科等	2学年 保健体育	時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップをとおして自分を大切にするためのという視点で、デートDVについて理解する。 ・デートDVに関わらず、他者とのコミュニケーションの基本的な考えにつなげる。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・デートDVとは何か、講演を通して理解を深める。 ・「自分を大切にする」という視点で自身について考える。 ・動画の視聴やロールプレイを通して、さらに理解を深めたり自分自身や身近な人について考える。 ・ロールプレイでは実際に「友だちに相談されたら」というテーマでグループで考える。 				
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が4人程度で1台のタブレットを使用し、チャット機能を使うことで、オンライン形式の講義でも双方向の活動ができるようにした。 ・「デートDV」という言葉を使用することで「自分を大切にする」という誰もが大切にしたいテーマにつなげた。 ・自分事としてとらえられるよう、実際に具体的な事例をあげ、「友だちに相談されたら」というテーマで班で話し合いを行った。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演者のアドバイスにより、生徒が安心して様々な意見が出されるようにした。 ・「自分を大切にする」ということが他者も大切にすることにもつながることを意識させた。 				

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

家庭科や社会科の授業における男女共同参画の学習内容につなげる。

事業成果

- ・ 知的側面：「デートDV」という言葉や、その言葉の意味」
アンケート結果：「言葉も意味も初めて知った」13.1%
「言葉は知っていたが、意味は初めて知った」38.8%
「束縛もDVになることに驚いた」「同意が必要なことが分かった」
【変容の分析】言葉は知っていたが、意味を知らなかったという生徒がいるなかで、「デートDV」について正しい理解につながるワークショップだった。「驚いた」と書いている生徒も多く、発見が多くあった。
- ・ 価値・態度的側面：「ワークショップはためになったか」
アンケート結果：「とてもためになった」32.8%「ためになった」53.4%
「客観的に自分を見ることを意識したい」
【変容の分析】ためになったと感じたうえで、「客観的」や「意識」という言葉が多く出ていたことから自分ごとにできていることがわかる。またグループワークで考え、チャットで参加するという形式を通しより身近に感じられた。
- ・ 技能的側面：「ワークショップを通して学んだこと」
「ちゃんと言葉にすることが大切だなと思った」「自分のことを大切にしようと思った」「どんな関係であろうと、相手とは対等な関係であるという大切さを学んだ」
【変容の分析】自身の現在やこれまでを振り返ったり、周囲の人を思い返したりし、何をするのが大切か考えることができた。また「どんな関係であろうと」という文言もあり、「デートDV」以外の問題についても考えをひろげている。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県	学校名	城郷高等学校
人権課題	障害者	対象学年・ 取り扱った教科等	1・2学年 理科
時数等	1時間		
目標・人権教育のねらい	<p>国籍・性別・年齢・障がい等にとらわれないコミュニケーションの基本的な考え方を身につけ、相互理解を深めることによって共生社会の実現に向けて、実際の学校生活で行動に移せるようにする。</p>		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育実践推進校としての本校の取組について、推進担当から講義を受ける。 ・JAXAの宇宙パズルを使用して、多様なメンバーがミッションを達成するために必要なコミュニケーション力を鍛えるアクティビティに取り組む。 		
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業年度に実施するアンケートにおいてインクルーシブ教育実践推進校としての取組について、生徒の理解度が低いことを把握している。そこで、教室や教科で実施している具体的な取組を紹介することで自分事として捉えられるようにした。 ・宇宙パズルは印刷したものをハサミで切り取ると手先の巧緻性が低い生徒が困る場面が生じる可能性があるため、切り取り式のを準備した。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室でのグループ構成を配慮したり、担任・支援担任による個別の支援を実施した。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAXAと連携したことで、アクティビティをより充実させるための指導や教材の活用につなげることができた。 		

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

他教科の探究的な活動において、相手の人権を尊重しながら目的を遂行するためのコミュニケーション力の向上に繋げる

事業成果

- ・ 国籍・性別・年齢・障がい等に関わらず全ての人を含んだ共同体を構成していくために必要なインクルーシブ教育実践推進校の取組における、本校の具体的な実践を知ることができた。
- ・ 誰もが当事者になる可能性に気付くことができた。
- ・ 学校における具体的な実践を知ること、多様な人で構成される学校という共同体の中で、学ぶ権利を成立させ、実践するために必要な視点を知ることができた。
- ・ 普段のコミュニケーションにおいて、いかに自分の考えていることが相手に伝わっていないのかを実感することができた。
- ・ 言葉だけのコミュニケーションでは、正確に伝えることが難しいため、相手の状況や考えを想定したうえで、言葉や説明を選択していくことの重要性に気付くことができた。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県	学校名	城郷高等学校
人権課題	外国人	対象学年・ 取り扱った教科等	1・3 学年 L H R
時数等	4 時間		
目標・人権教育のねらい	国籍・性別・年齢・障がい等にとらわれないコミュニケーションの基本的な考え方を身につけ、相互理解を深めることによって共生社会の実現に向けて、実際の学校生活で行動に移せるようにする。		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による「国際的な相互理解について」講義 ・学年を混合したグループワーク ・共生社会に向けたグループによる行動宣言づくり ・2 学年に向けた授業内容の掲示 		
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドに写真を多く入れることで、海外の様子を視覚的に理解できるようにした。 ・講義時に使用するプリントの一部を穴埋め形式にしたことで、どの生徒にも取り組みやすいものにした。 ・グループワークのプリントでは、2 学年に向けて掲示することを考え、興味を持って2 学年が見られるよう、「行動宣言」をめくる形式でプリントを作成した。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より詳しい海外の状況や在日外国人の状況に触れることができるよう、外部講師に講義を依頼した。 ・緊張感をもったグループワークを行うため、学年を混合したグループワークとした。また、様々な考え方に触れることができるよう、学年の違う人と話し合いを行った。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的に食や農に係る起業等を支援する企業の方に講演を依頼し、充実した内容とした。 		

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

社会科において、より詳細な地理的・歴史的な違いによる文化や考え方の違いを知ることで、自分やグループの価値観と比較・共有することで人権意識を深める

事業成果

アンケート結果

- ・ 本日の講義について、どれくらい理解できたか（5段階で「5」ができた）
「5」（19.8%）「4」（36.2%）「3」（37%）「2」（5.8%）「1」（1.2%）
- ・ 学年を混合したグループワークについて（5段階で「5」がよかった）
「5」（30.6%）「4」（33.2%）「3」（30.3%）「2」（3.2%）「1」（2.6%）
- ・ 講義やグループワークで考えた質問や感想（自由記述）
 - ①国について数字やネットで分かる情報だけでなく、裏にある文化なども知って考える事も大事だと思いました。（原文）
 - ②それぞれの国で文化や価値観が異なっていることは難しいけど、理解して助け合うことが大切だと思った。（原文）
 - ③今世界で起こっていることを詳しく知り、今自分がどうすればいいのかのヒントになったと思う。（原文）
 - ④3年生が話し合いを仕切ってくれたし、わからないことは優しく教えてくれたのでとてもやりやすかったです。（原文）

アンケート結果分析

- ・ 理解度は概ねよい。
- ・ 目に見えているものだけでなく、文化など相手のバックグラウンドを知る大切さに気が付くことができた。
- ・ 自分が共生社会に向けて何ができるのかなど、自分事として考えることができた。
- ・ 学年を混合したグループにより、自身の役割を意識してワークを行うことができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県	学校名	城郷高等学校
人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・ 取り扱った教科等	1学年 職業「社会生活A」
		時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン・SNSは大変便利であるが、使い方について知識やモラルが不十分だとトラブルを起こしたり巻き込まれたり、人権侵害になる可能性があることに気づく。 ・SNS・インターネットの正しい使い方とともに、人権について考える。 		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・SNSやスマートフォンを日頃どのように使用しているか、ふりかえる。 ・「クイズ! スマホで川柳」全員で空欄の中を考える。 ・「マンガでロールプレイ」(人権学習のための参加体験型学習プログラム集・第3集より)ワークシートのマンガを読み、吹き出しにセリフを入れる。 ・「つくってみよう! スマホで川柳」今日の学習を通し、感じたこと等を川柳で表現する。 		
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別募集の生徒が対象の授業のため、文字ばかりでなく、イラストが豊富に使われているワークシートを選び、使用した。 ・自身が日頃どのように使っているかを先に考える時間を設けることで、自分事と捉えられるようにした。 ・ロールプレイ後に川柳をつくることで、授業での自分の学びについて振り返ることができるようにした。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マンガでロールプレイ」の事例を少しでも身近に感じるようにする。 ・「マンガでロールプレイ」の事例にとどまらない多くの事例があることを理解する。 		

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

情報科における「情報セキュリティー」や「情報モラル」と関連付けることにより人権意識を高める。

事業成果

- ・ 知識的側面：「スマートフォンや SNS に関わる人権について理解しているか」
振り返りより：「人権という言葉を書くことはあるけど、よく考えたことがなかった。いろんなことが人権なんだと思った。」
【変容の分析】人権についての説明を少し取り入れたことにより、目に見える相手だけでなく広く影響を及ぼすことなのだ理解できている。身近で具体的なスマートフォンや SNS の話題から、人権というさまざまな課題に関わるところに理解や関心がつながった。
- ・ 価値・態度的側面：「何気ない行動が人権侵害につながる可能性があることに気づく」
振り返りより：「悪いと思ってなくても人権侵害につながるということがわかった。」
「自分も似たようなことを見たことがある。」
【変容の分析】自分事として考えることができている。また、自身が悪くないと思っていなくても人権侵害につながる可能性があることを考えることができた。
- ・ 技能的側面：「スマートフォンや SNS の役割や使い方について、考えながら使うことができる。」
振り返りより：「投稿したり送ったりする前に考えようと思った。」
【変容の分析】自分が思ったよりも広い範囲へ影響したり、相手に強く影響したりすることが理解でき、今後の使い方をについて考えることができた。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県		学校名	城郷高等学校	
人権課題	アイヌの人々	対象学年・ 取り扱った教科等	1 学年 公民	時数等	1時間
目標・人権教育のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化について理解を深め、差別や相互理解について考える。 				
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの歴史や文化について知ると同時に、講演者の現在の活動をするきっかけや思いを知ることにより、知識を深めるだけでなく自分自身についても考えるきっかけとする。 ・講演者の差別や相互理解に対する考え方を聞くことを通し、アイヌの問題にとどまらない他者理解について考える。 				
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化についての知識がない生徒が多いと判断し、講演者には、講演内容をある程度絞って話してもらえよう依頼するなど、丁寧な事前打ち合わせを行った。 ・書き込めるプリントを用意し、気になる言葉についてメモを取れるようにした。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会で「アイヌ文化」に触れる。 ・アイヌ文化を知るだけでなく「他者理解」に意識を向けさせ自分事として考える。 				

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

地理歴史、特に歴史総合において日本国内の文化の違いや政策による様々な人権課題と関連付けることによって人権意識を深める

事業成果

- ・ 知識的側面：「講演を通してアイヌ文化等についてはじめて知ったこと」
アンケート結果：「はじめて知ったことがあった」94.3%
「意外に身近な言葉がアイヌ由来だった」「考え方や言葉が違いすぎて驚いた。」
【変容の分析】ほとんどの生徒が「はじめて知ったことがあった」と答えている。また意外と身近であることや違いを理解している。
- ・ 価値・態度的側面：「アイヌ文化等について印象に残ったこと」
アンケート結果：「アイヌ語には文字がない」「人権やゴミ、社会という言葉がない」
【変容の分析】自身との違いについて、身近な例をもとに考えることができている。自分たちが当然のように使っている言葉や時には苦しめられることもある言葉がないということが印象に残っている。自身との違いを通し、より理解を深めている。
- ・ 技能的側面：「講演を通して考えたこと」
アンケート結果：「文化・歴史的な背景等を正しく知ることが人権を尊重することにつながる」「人の個性について考えた」「積極的に知ろうとすることが大切」
【変容の分析】アイヌ文化理解を通して、他者を理解することの大切さやそのために必要なことまで考えが広がっている。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県	学校名	城郷高等学校
人権課題	北朝鮮当局による拉致問題等	対象学年・ 取り扱った教科等	1・2学年 LHR
時数等	2時間		
目標・人権教育のねらい	拉致問題に関する講演や横田氏・黒岩知事への質問等を通じて理解を深め問題解決に向けて市民として何ができるのかを考える。		
実施した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習として拉致被害者パネルを各学年のホールに展示 ・アニメ「めぐみ」を視聴 ・北朝鮮による拉致被害者家族連絡会の横田氏による講演 ・黒岩知事も含めた質疑応答 		
工夫した点	<p>(教材の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演会だけの一時的な効果ではなく、事前学習から当日、振り返りの流れの中で、北朝鮮当局による拉致問題という人権問題に対して自分事として捉えられるようにした。 ・質疑応答の場面において、質問事項についてスクリーンに投影することで、聴覚からの情報記憶が難しい生徒に対して配慮する形式にした。 <p>(指導上の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問内容に関しては、被害者の立場でどのように感じるのか一つ一つの言葉の意味を丁寧に考えて作成するように支援した。 <p>(地域や関係機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北朝鮮による拉致被害者家族連絡会、神奈川県文化スポーツ観光局国際課 		

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

社会科において、個人と国家が達成すべき人権保障の共通基準である「世界人権宣言」の内容と照らし合わせ、人権と自己に関わる問題である意識を高める。

事業成果

アンケート結果

- ・ 拉致問題の内容について、どれくらい理解できましたか
よく理解できた (49.5%) 理解できた (41.9%)
少し理解できた (6.1%) 難しかった (2.5%)
- ・ 拉致問題について関心を持ちましたか
とても関心をもった (35.5%) 関心をもった (44.6%)
少し関心をもった (17.9%) 関心をもてなかった (2%)

アンケート結果分析

- ・ アンケート結果から9割の生徒が講演に対して理解することができた。また8割の生徒が関心を持てたことが分かる。
- ・ 自由記述欄においては「自分事」と記述する生徒が多く、「家族や友達にも伝えたい」という記述もあった。横田氏の考えが十分伝わり、拉致問題学習会の目的を果たすことができた。
- ・ 拉致問題を理解し、関心を持ち、自分事として捉え、さらに黒岩知事を目の前に質疑応答する機会によってシチズンシップの意識を高めることができた。
- ・ これから成人となり主権者となる生徒達が拉致問題に関して考え、行動するきっかけとなった。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・ 指定都市等名	神奈川県	学校名	城郷高等学校		
人権課題	その他（人権全般）	対象学年・ 取り扱った教科等	3学年 国語	時数等	2時間
目標・人権教育のねらい	「人の命や尊厳を守る」という視点から、登場人物のかかわり方を捉え、コミュニケーションのあり方や人権尊重について考える。				
実施した内容	夏目漱石の『こころ』の内容をゲートキーパー（命の門番）の視点から読解する。作中人物の自殺を食い止めるために何ができたかということグループワークで考える。				
工夫した点	<p>（教材の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品から3つの場面を選び、生徒によって考える場面を変更した。異なる場面から考えたことをグループおよび全体で共有し、作品を人権的視点から多角的に読解する工夫をした。 ・ 考えをまとめる時の参考になるように、事前に「アサーション」と「ゲートキーパー」について知る時間を設けた。 <p>（指導上の工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループワーク時の決まり事を提示し、生徒がお互いの意見を尊重しながら考えを深めていけるように工夫した。 ・ グループワーク時の役割分担を明示し、お互いの得意不得意を補い合いながら学習できるようにした。 				

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

「アサーション」の内容を各教科での学習に取り入れ、生徒がお互いを尊重しながら話し合えるように工夫する。

事業成果

知識的側面：「ゲートキーパー」「アサーション」への理解度

授業前：「ゲートキーパー」 初めて聞いた。→71.7%

「アサーション」 初めて聞いた。→95%

授業後：「ゲートキーパー」について理解を深めることはできましたか。

できた→55.1% 少しできた→36.2% できなかった→8.7%

「アサーション」について理解を深めることはできましたか。

できた→59.4% 少しできた→33.3% できなかった→7.2%

価値・態度的側面：今回の授業の目標をどの程度達成できたか

達成できた→37.7% ある程度達成できた→58%

あまり達成できなかった→2.9% できなかった→1.4%

※授業の目標「人の命や尊厳を守る」という視点から、登場人物のかかわり方を捉え、コミュニケーションのあり方や人権尊重について考える。」

技能的側面：授業を通して考えたことを今後の生活にどう活かしていけるか（自由記述）

- ・自分の何気ない言葉や行動で誰かの自殺のきっかけになってしまうかもしれないということを学んだ。一つ一つの言動に気を付けてコミュニケーションのあり方を考えながら生活したいと考えた。
- ・自分の何気ない一言で相手を傷つけたり死においやってしまうのだと知りました。またもしかしたら身近にゲートキーパーとしての役割を望まれていた時があったのかも知れないと思いました。身近な人の異変や自分の発する言葉をもう一度見直していこうと改めて気付かされました。